



夢・挑戦

令和7年度 第21号
田鶴小学校 学校通信
令和8年 3月 2日

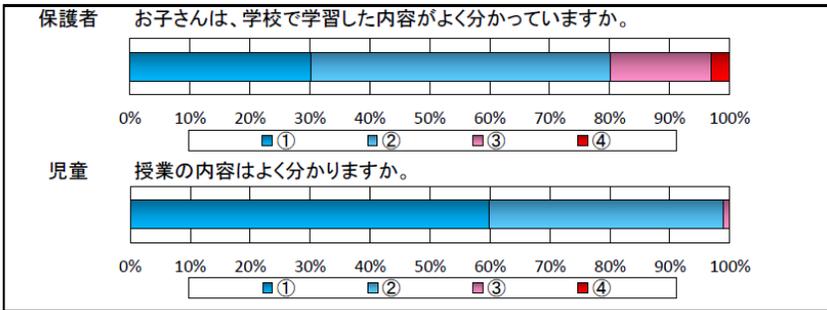
学校評価 保護者・児童アンケート結果

皆様からいただいた貴重なご意見や評価は、本校の教育活動を振り返り、より良い学校づくりを進めていくための指針となります。本号では、集計結果に基づいた現状の分析と、それを受けた今後の本校の取組についてご報告させていただきます。

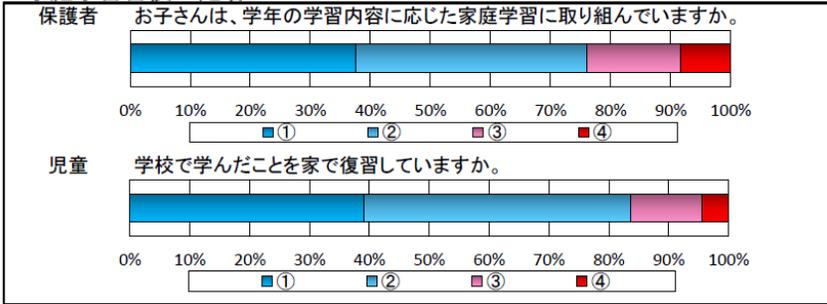
保護者・児童アンケート 評価の基準
①・・・そう思う
②・・・どちらかというと思う
③・・・どちらかというと思わない
④・・・思わない

1. 確かな学力の育成

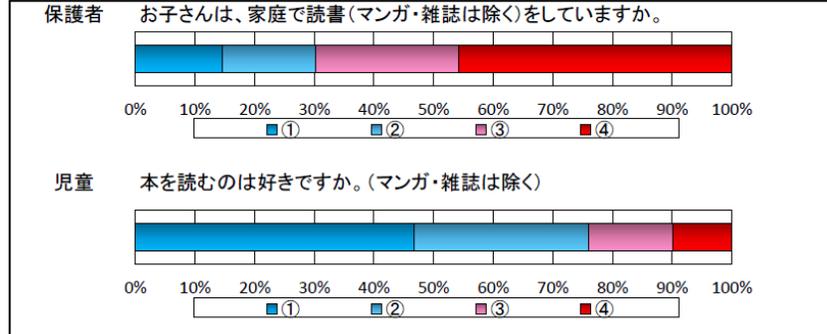
授業の充実



家庭学習習慣の定着



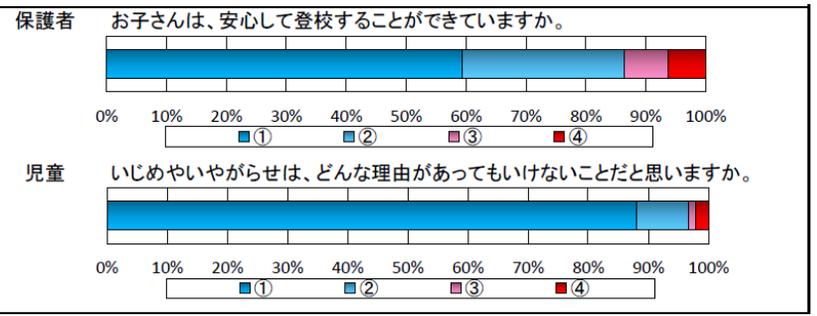
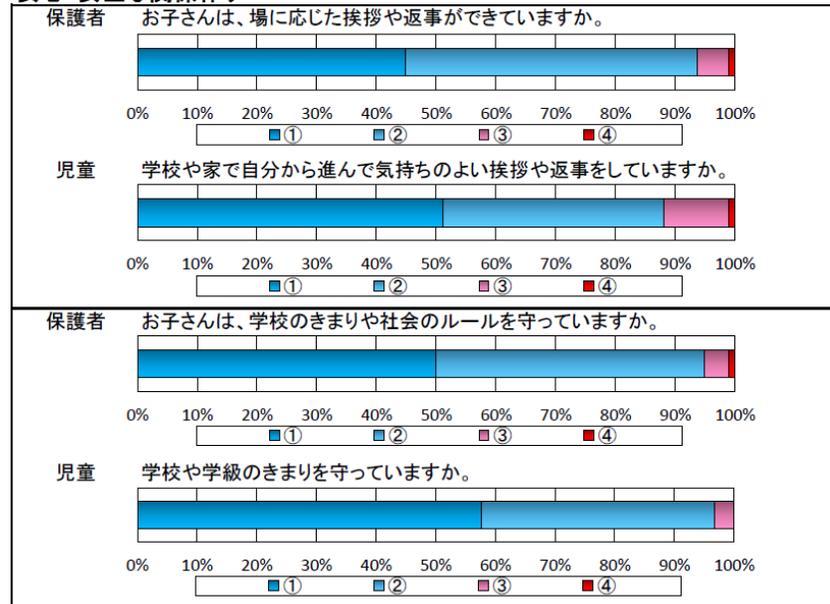
読書活動の推進



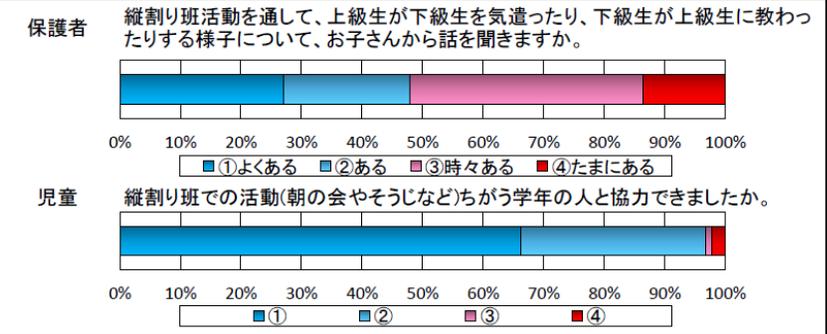
確かな学力の育成

アンケートの結果、「授業内容の理解」については児童の9割以上が肯定的ですが、保護者の視点では「家庭学習の定着」や「読書習慣」に課題が見られました。今後は、授業のさらなる充実により学習意欲を高めるとともに、学校での学びを家庭での復習へ繋げられるよう工夫していきます。また、読書に関しては、学校と家庭が連携してお子さんの確かな学力を育てていきます。

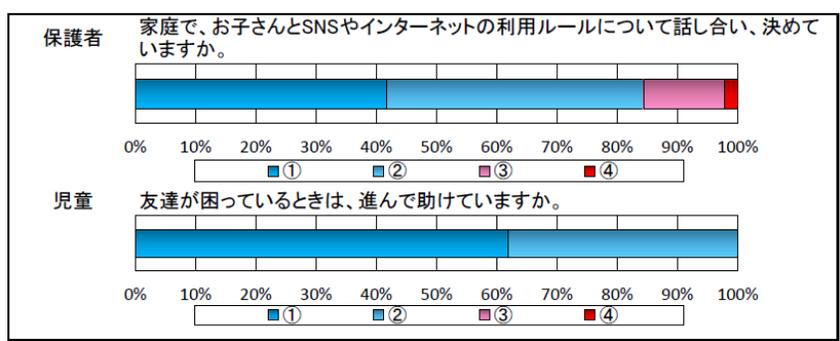
2. 豊かな心の育成 安心・安全な関係作り



特別活動の充実



道徳教育の充実

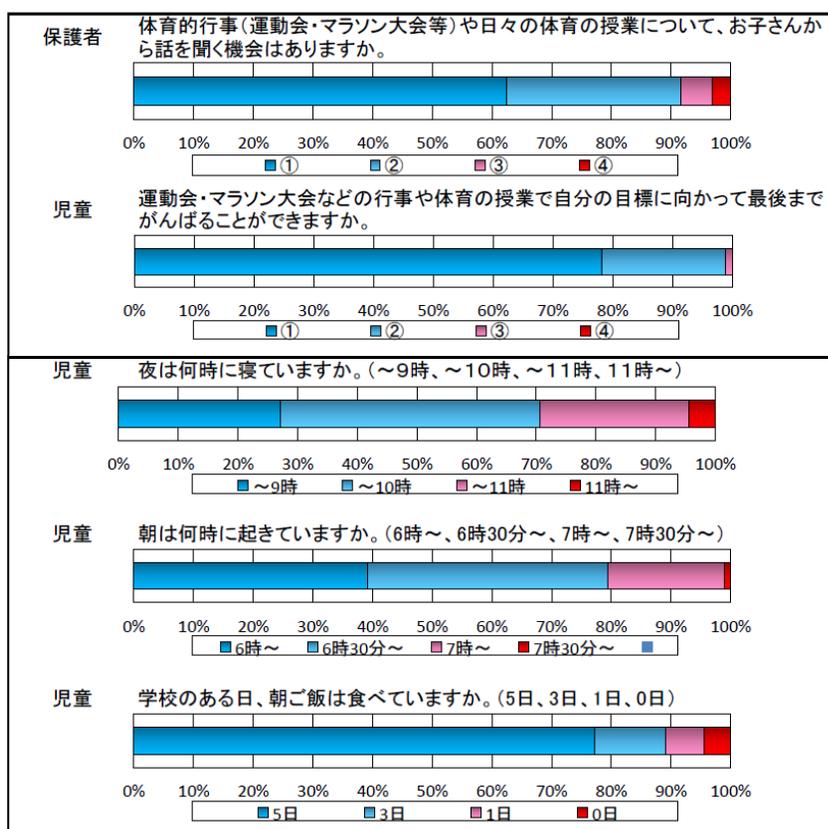


豊かな心の育成

アンケートの結果、挨拶や決まりを守る態度は概ね良好ですが、今後は「自ら進んで」挨拶できる児童の育成を進めていきます。また、安心して登校できるように「いじめを許さない心」や「助け合い」の精神をさらに伸ばさせていきます。縦割り班活動については、異学年交流を一層活性化させるとともに、家庭への発信を強化します。SNS等のルール作りでも連携を深め、自律心と思いやりのある豊かな心を育てていきます。

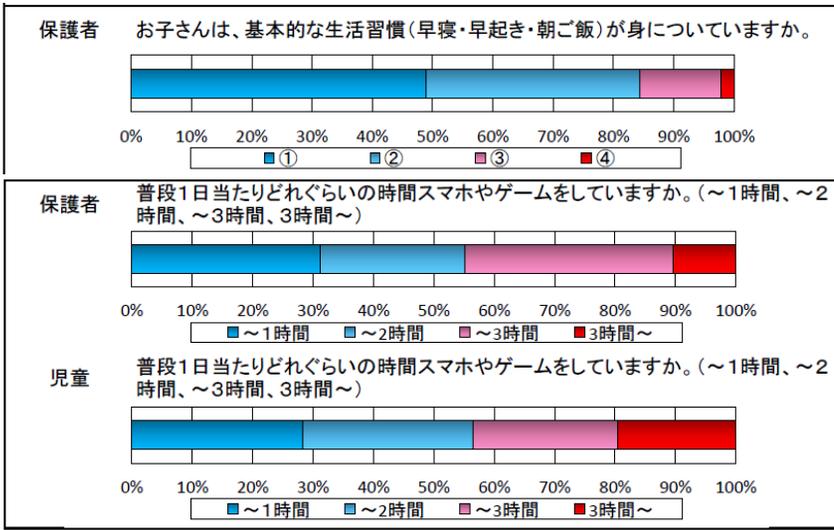
3. 健やかな体の育成

健康の保持増進と体力の向上

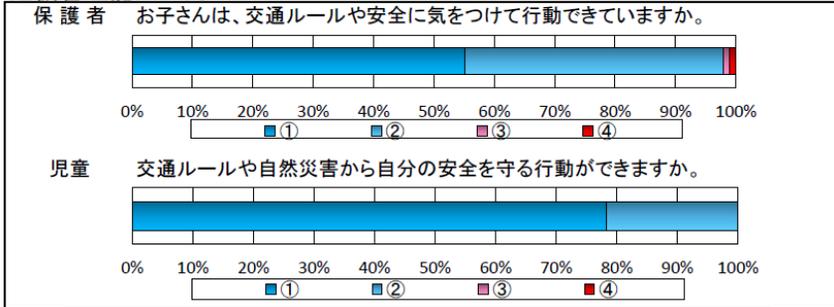


学校評価保護者アンケート 自由記述

ご意見	回答
①人数が少ないからこそ、縦割り活動を通して多学年との関わりがあるのは、すごく良いと思います。	上級生がリーダーシップを発揮し、下級生はそれを目標にして成長していく。こうした異学年が共に育ち合う環境こそが、本校が最も大切にしたい教育の姿です。今後も、縦割り班活動をはじめとする学年を超えた交流を継続し、豊かな人間性を育てていきます。
②有田市の他校は宿題にタブレットを使用していないところもあるようですが、授業でのタブレットの使用は分かりますが、宿題は手書きのみにできないのでしょうか?外出先でできなかったり、凄く時間がかかったりします。暗記力や学力が低下をしていると思われる。	近隣校と対応が異なる点もございますが、本校では将来を見据え、ICTを積極的に活用した教育を推進しています。一方で、「漢字の定着が心配」というご意見も重く受け止めています。手書きによるドリル学習とデジタル学習の最適なバランスを再検討し、特に漢字については、書く習慣を疎かにしないよう、課題設定などにおいて柔軟な対応を模索してまいります。 来年度の和歌山県学習到達度調査(4・5年生)および再来年度の全国学力・学習状況調査(6年生)より、タブレットで回答するCBT方式への移行が決定しています。これに対応できる力を養いつつ、デジタル・アナログ双方の利点を取り入れ、「確かな学力」の育成に努めてまいります。
③タブレットでの宿題はやめて欲しい。(特に漢字)漢字ドリルとノートでの記述式に戻して欲しいです。タブレットになってから全く身に付いているとは思いません。どちらかと言えば悪くなっています。家でさせればよい話ではないと思います。せめて土日だけでも漢字ドリルにしてほしいです。	感染症の流行状況については、より早い段階で「すぐー」等の通知でお知らせいただくか、予防対策(手洗いがいい、マスク着用など)の注意喚起をお願いしたい。
④感染症が流行る前にぼつぼつ出始めているとかの情報を「すぐー」でお知らせいただくか、予防対策(手洗いがいい、マスク着用など)の注意喚起をお願いしたい。	感染症の流行状況については、より早い段階で「すぐー」等の通知でお知らせし、ご家庭と連携して予防(手洗いがいい等の呼びかけ)に努められるよう運用を改善いたします。
⑤連絡帳などがなくなり、連絡くれるまで、学校の様子、宿題忘れてたや、授業に遅れてるなどがわかりにくい。「すぐー」は、連絡しやすいですが、様子などはわかりにくい。	連絡帳のデジタル化により、日々の細かい様子が伝わりにくいというご懸念をおかけしています。本校ではこれを補うべく、電話や「すぐー」、学級より・学級ホームページでの情報発信を強化し、学習の進捗や学校での生活の様子をより丁寧にお伝えできるよう工夫していきます。
⑥通学路に空き家が多く、草も茂っていたり蜂が巣を作っていたりなのでとても危ないです。通学路の整備をしてほしいです。	児童の安全は最優先事項です。市や自治会と連携して、草刈りや蜂の巣の駆除など適切な処置を求めてまいります。
⑦お知らせについて、欠席の通知や休校、授業参観等などは「すぐー」でもよいと思いますが、学級通信や大事なお便りは紙ベースで頂きたいです。	情報の即時性を活かすものは「すぐー」、じっくり目を通していただきたい大事な案件や保管が必要なものは「すぐー」と紙媒体両方というように、内容に応じて適切に使い分けよう検討していきます。資源保護や業務効率化の観点からペーパーレス化を推進していますが、利便性も考慮しつつ、大切な情報が確実に伝わる形を模索していきます。
⑧全てペーパーレスではなく、大事な案件については子どもを通じてお願いしたく、検討のほどよろしくお願いたします。	国が推進している制度ではありますが、担任と過ごす時間が減ることへの不安もあろうかと思えます。教科担任制には「専門性の高い授業の提供」や「複数の教員による多角的な見守り」といった大きな利点があります。 学級担任制と教科担任制、それぞれの良さを改めて整理し、本校の子どもたちにとって最適な形となるよう、来年度に向けた体制を慎重に検討していきます。
⑨国からの方針なので難しいとは思いますが、教科担当制は廃止し、専門教科以外の授業は全て担任に担当してもらいたいです。	「学校を近くに感じる事ができていく」という温かいお言葉をいただき、ありがとうございます。今後も保護者の皆様にとって、より分かりやすく、安心につながる情報発信を心がけていきます。
⑩学校だよりや、クラスやその他連絡など、「すぐー」を通じて知ることができ、学校を近くに感じる事ができています。	



危機管理能力の向上



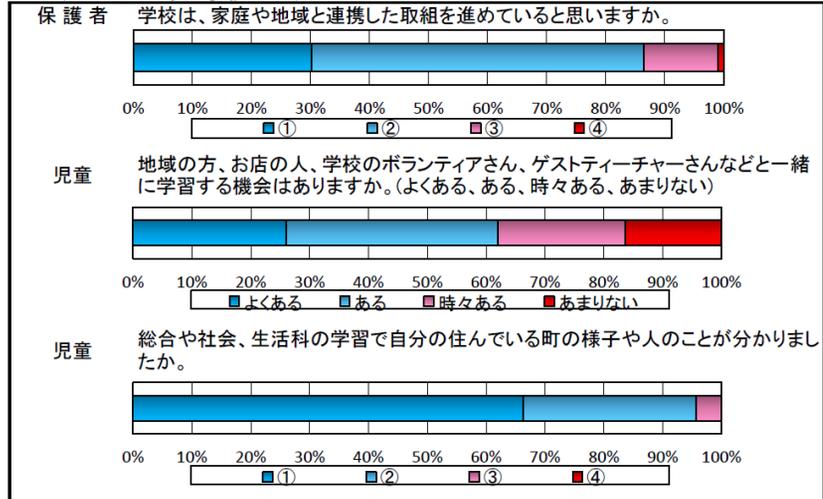
健やかな体の育成

アンケートの結果、就寝時刻や朝の過ごし方に個人差が見られました。また、スマホやゲームの利用時間は児童・保護者共に「1時間以内」が約3割に留まり、長時間化が懸念されます。

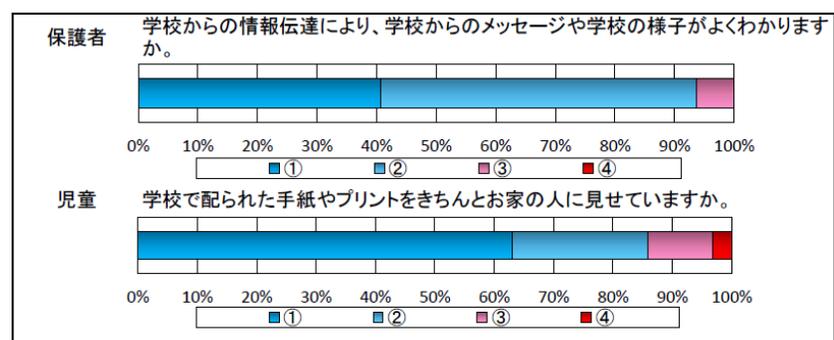
今後は、体育の授業や行事を通して目標に挑戦する力を育むとともに、生活リズムの重要性を啓発し、ICT機器との適切な付き合い方を含めた健康な体づくりを家庭と連携して推進していきます。

4. ふるさとの愛着の育成

地域とともにある学校づくり



積極的な情報提供



ふるさとの愛着の育成

学校通信「夢・挑戦」でお伝えした通り、「浜カフェ」や「昔遊び」、「ミシンボランティア」等で多くの地域の方々にお世話になりました。また、駐在所や公民館、漁協、地域の商店などの見学を通じ、地域の皆様に温かく支えていただきました。今後は総合的な学習の時間等を中心に、町の良さや人々の営みを実感できる体験活動を一層充実させていきます。併せて、子供たちの活動の様子がより鮮明に伝わるよう積極的な情報発信に努め、家庭・地域と一体となって郷土への誇りと愛着を育てていきます。